



日本乳幼児教育学会 第34回大会

34th The Japanese Society for Education of Young Children

大会プログラム

「AIが拓く
人工知能

保育の物語り」

VS.

「NIによって意味づける
自然知能

保育の物語り」



開催期間

2024年11月16日(土)・17日(日)

会場

いわて県民情報交流センター アイーナ
(岩手県盛岡市盛岡駅西通1丁目7番1号)

日本乳幼児教育学会



The Japanese Society for Education of Young Children

第34回大会 大会プログラム

2024年11月16日(土)・17日(日)

目 次

日本乳幼児教育学会第34回大会の開催にあたって.....	1
日本乳幼児教育学会 大会の歩み.....	2
大会プログラム.....	4
大会日程.....	5
会場への交通案内.....	6
いわて県民情報交流センター アイーナ 会場配置図.....	7
大会参加者の皆様へ.....	9
発表者・登壇者の皆様へ／研究発表座長の皆様へ.....	11
基調講演.....	12
学会企画シンポジウム.....	13
大会企画シンポジウム.....	15
自主シンポジウム題目.....	23
研究発表（口頭発表）題目.....	27
研究発表（ポスター発表）題目.....	42
協賛団体.....	46

日本乳幼児教育学会第34回大会の開催にあたって（ご挨拶）

日本乳幼児教育学会第34回大会実行委員長
香曾我部 琢(宮城教育大学)

会員の皆様

第34回大会の実行委員長を務めます香曾我部琢です。今大会は「生成AI」がテーマの中に盛り込まれています。皆様へのお誘いの文章を生成AIに書いてもらいました。いかがでしょうか？

生成AIに以下の文章のようにお願いしてみました。

「日本乳幼児教育学会の会員にむけて、第34回大会に参加するようにお誘いする文章を、大会実行委員長の立場で作成して欲しい。」

ついでに…「AIの進化がもたらす保育の可能性と、自然知能を活かした保育の視点を探求し、未来の保育について考える貴重な機会」という文章をもとにポスターを生成AIに描いてもらいました。

日本乳幼児教育学会の皆様へ、

日本乳幼児教育学会第34回大会の実行委員長、香曾我部琢です。

このたび、2024年11月15日から17日にかけて、盛岡・情報交流センター「アイーナ」で開催される大会に、皆様方をご参加いただくことを心よりお誘い申し上げます。

大会のテーマは、「AI（人工知能）が拓く保育の物語り」vs「NI（自然知能）によって意味づける保育の物語り」となります。AIの進化がもたらす保育の可能性と、自然知能を活かした保育の視点を探求し、未来の保育について考える貴重な機会となることでしょう。

大会は、2024年11月16日(土)・17日(日)の2日間にわたり開催されます。また、11月15日(金)にはプレイベントも予定されておりますので、ぜひご参加ください。

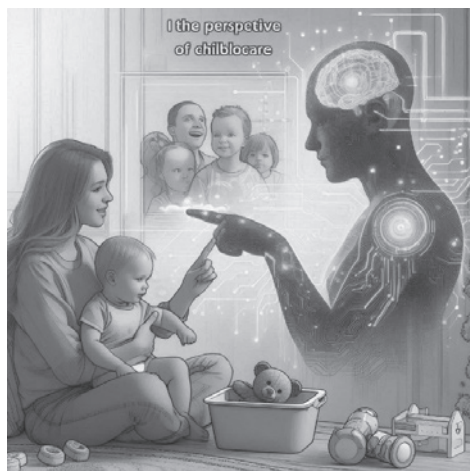
会場は、いわて県民情報交流センター アイーナとなります。アクセスの詳細などは、大会Webサイトをご確認ください。

大会の詳細や参加申込方法については、大会Webサイト (<https://jseyc2024.com/>) をご覧いただきますようお願い申し上げます。参加申込や参加費のお支払いも、大会Webサイトからお手続きいただけますので、ご確認ください。

また、研究発表や自主シンポジウムに参加される方は、7月31日(水)までに大会Webサイトからお申込みください。

大会では、東京大学の今井翔太氏を基調講演としてお招きし、「生成AIで世界はこう変わる」と題して最新のAI技術についてご講演いただきます。今井氏は生成AIの研究で博士号を取得され、AIの次世代技術に関する著書も多数執筆されています。

この機会に、学術研究の交流や新たな知見の獲得、保育の未来についての議論を深める貴重な場となります。ぜひ、皆様方のご参加をお待ちしております。



日本乳幼児教育学会大会の歩み

大会（開催年）	開 催 校	実行・運営委員長	研究発表件数
第1回（1991年）	聖和大学	莊司 雅子	20件
第2回（1992年）	広島大学	丸尾 譲	15件
第3回（1993年）	神戸大学	浜本 純逸	25件
第4回（1994年）	京都大学	稲葉 宏雄	28件
第5回（1995年）	鳴門教育大学	佐々木宏子	32件
第6回（1996年）	大阪教育大学	玉置 哲淳	33件
第7回（1997年）	西南学院大学	米谷 光弘	36件
第8回（1998年）	名古屋女子大学	鈴木 重夫	33件
第9回（1999年）	お茶の水女子大学	無藤 隆	25件
第10回（2000年）	聖和大学	武田 俊昭	34件
第11回（2001年）	倉敷市立短期大学	前橋 明	49件
第12回（2002年）	昭和女子大学	福場 博保	45件
第13回（2003年）	大阪樟蔭女子大学	片山 忠次	60件
第14回（2004年）	中京女子大学	平岩 定法	56件
第15回（2005年）	京都文教短期大学	安藤 和彦	41件
第16回（2006年）	大阪総合保育大学	大方 美香	53件
第17回（2007年）	東京学芸大学 白梅学園大学	岩立 京子	74件

大会（開催年）	開 催 校	実行・運営委員長	研究発表件数
第18回（2008年）	大阪キリスト教短期大学	文屋 知明	62件
第19回（2009年）	川村学園女子大学	川村 正澄	56件
第20回（2010年）	関西学院大学 聖和短期大学	島田ミチコ	76件
第21回（2011年）	東京成徳大学 東京成徳短期大学	木内 秀俊	78件
第22回（2012年）	武庫川女子大学 武庫川女子短期大学部	西本 望	83件
第23回（2013年）	千葉大学	中澤 潤	124件
第24回（2014年）	広島大学	七木田 敦	126件
第25回（2015年）	昭和女子大学	横山 文樹	118件
第26回（2016年）	神戸女子大学 神戸女子短期大学	三宅 茂夫	138件
第27回（2017年）	西南学院大学	門田 理世	122件
第28回（2018年）	岡山大学	高橋 敏之	168件
第29回（2019年）	東北文教大学短期大学部	奥山 優佳	112件
第30回（2020年）	愛知教育大学 名古屋柳城女子大学	鈴木 裕子	139件
第31回（2021年）	福山市立大学	大庭 三枝	130件
第32回（2022年）	オンライン開催 （協力校：常磐会短期大学）	神長美津子	81件
第33回（2023年）	名古屋市立大学	上田 敏丈	119件
第34回（2024年）	いわて県民情報交流センター アイーナ	香曾我部 琢	80件

大会プログラム

第1日 11月16日(土)

9:20～10:50	研究発表（口頭発表Ⅰ-1～Ⅰ-5） 研究発表（ポスター発表Ⅰ）
11:00～12:30	自主シンポジウムⅠ-1、Ⅰ-2 大会企画シンポジウムⅡA
12:30～13:30	総会
13:30～15:00	開会式・基調講演
15:10～16:40	自主シンポジウムⅡ-1、Ⅱ-2、Ⅱ-3、Ⅱ-4 大会企画シンポジウムⅡB 研究発表（口頭発表Ⅱ-1、Ⅱ-2）
9:20～16:40	書籍等展示販売

※理事会は11:00～12:30に開催いたします。

※会場借用時間が17時までのため、1日目は昼食時間と総会が重複しております。

1階にコンビニなどがありますので、事前にご準備のほどよろしくお願いいたします。

第2日 11月17日(日)

9:20～10:50	研究発表（口頭発表Ⅲ-1～Ⅲ-6） 研究発表（ポスター発表Ⅱ）
11:00～12:30	大会企画シンポジウムⅠ
13:30～16:40	大会シンポジウムⅣ
13:30～15:00	学会企画シンポジウム 大会企画シンポジウムⅢ、ⅡC
15:10～16:40	自主シンポジウムⅢ-1、Ⅲ-2 研究発表（口頭発表Ⅳ-1、Ⅳ-2）
9:20～16:40	書籍等展示販売

大会日程

第1日 11月16日(土)

(受付 9:00～)

	9:20～10:50	11:00～12:30	12:30～13:30	13:30～15:00	15:10～16:40
会議室801		理事会			
会議室802					
会議室803		自主シンポジウムI-1		開会式・基調講演(オンライン)	自主シンポジウムII-1
会議室804		大会企画シンポジウムIIA	総会	開会式・基調講演	大会企画シンポジウムIIB
会議室805	書籍等展示販売				
会議室807	ポスター発表I	ポスター自由閲覧			
会議室808					
研修室810	口頭発表I-1	自主シンポジウムI-2			自主シンポジウムII-2
研修室811	口頭発表I-2				自主シンポジウムII-3
研修室812					
研修室813	口頭発表I-3				自主シンポジウムII-4
研修室814	口頭発表I-4				口頭発表II-1
研修室815	口頭発表I-5				口頭発表II-2
研修室816					

第2日 11月17日(日)

(受付 9:00～)

	9:20～10:50	11:00～12:30	12:30～13:30	13:30～15:00	15:10～16:40
会議室801					
会議室802	口頭発表III-1				
会議室803					
会議室804		大会企画シンポジウムI		会議室804(A) 大会企画シンポジウムIII 会議室804(B) 学会企画シンポジウム	
会議室805	書籍等展示販売				
会議室807	ポスター発表II	ポスター自由閲覧			
会議室808					
研修室810					
研修室811	口頭発表III-2			大会企画シンポジウムIIC	自主シンポジウムIII-1
研修室812				大会企画シンポジウムIV	
研修室813	口頭発表III-3				
研修室814	口頭発表III-4				自主シンポジウムIII-2
研修室815	口頭発表III-5				口頭発表IV-1
研修室816	口頭発表III-6				口頭発表IV-2

会場への交通案内

○いわて県民情報交流センター アイーナ

【住所】〒020-0045 岩手県盛岡市盛岡駅西通1丁目7番1号



○いわて県民情報交流センター アイーナへのアクセス

1. 車利用の場合

- ・東北自動車道盛岡ICから車で8分

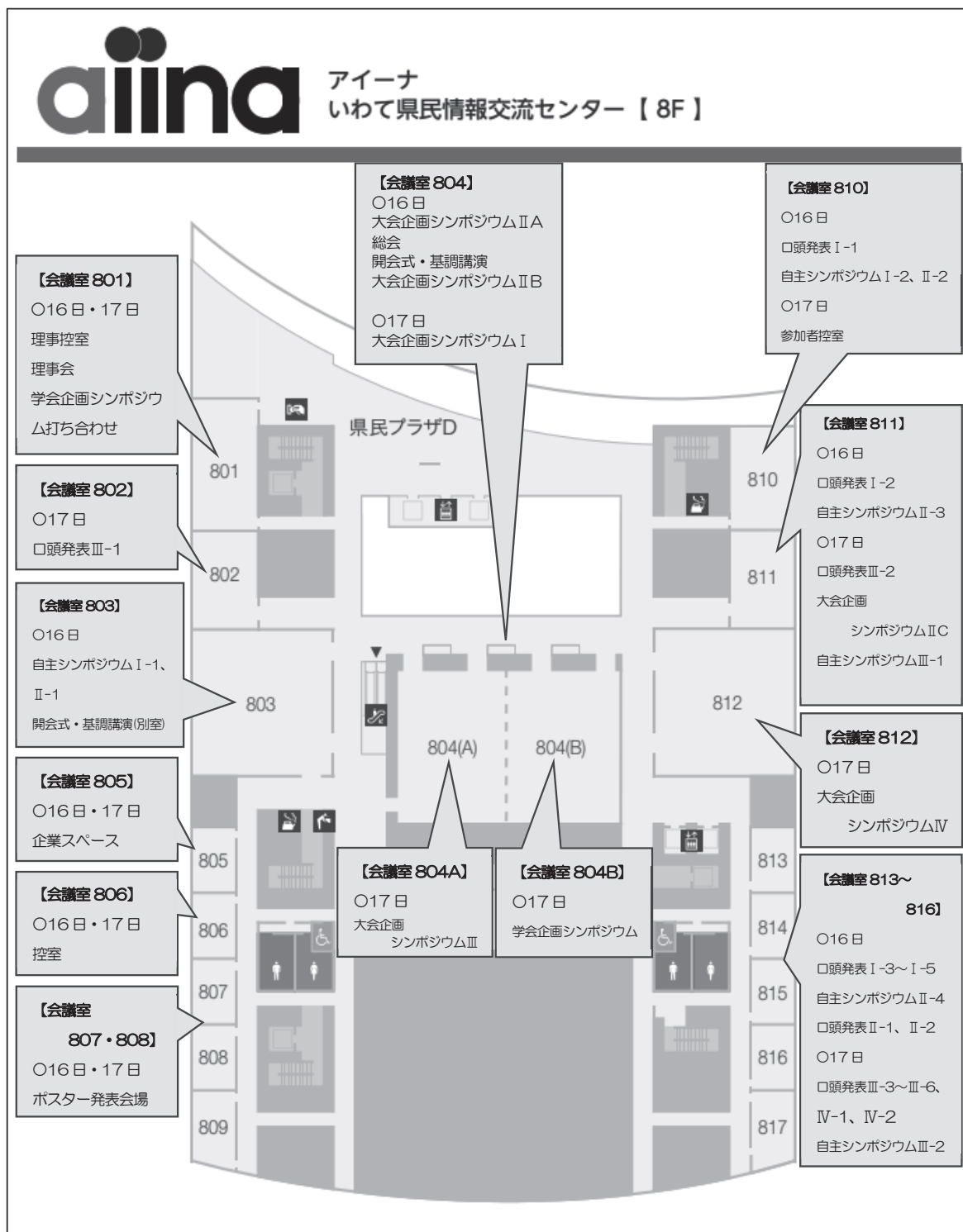
2. 飛行機利用の場合

花巻空港（花巻市）⇒ シャトルバス（45分：1,500円）⇒ 盛岡駅 ⇒ 徒歩4分

- ・シャトルバスについて

http://www.iwatekenkotsu.co.jp/hanamaki_kukou.html

いわて県民情報交流センター アイーナ会場配置図



いわて県民情報交流センター アイーナ会場配置図



アイーナ
いわて県民情報交流センター【7F】



大会参加者の皆様へ

第34回大会の実施においては、第33回大会同様、環境にやさしい持続可能な学会であることを意識し取り組んでおります。具体的には、以下の点を実行しております。

- 大会プログラムや要旨集などをPDFのみとして、紙媒体の使用を減らす。
- 大会配布のネームホルダーなど、プラ資源の使用を減らす。

以上、ご理解いただきますようお願いいたします。

1. 受付

- 7階 会議室702入口にて行います。会場内では名札を必ず着用してください。
- 11月16日(土) 9:00 ～ 17:00
- 11月17日(日) 9:00 ～ 16:00

☆予約参加者

- 当日、受付横の台で名前の用紙にご所属・ご芳名をご記入してください。
- 本学会では、環境資源の無駄使いを避けるために、**各自ネームホルダーをご持参くださいますようお願いいたします**。ネームホルダーをお忘れの方は、受付に紙紐を用意いたしますので、各自で名前の用紙に紙紐をつけてくださいますようお願いいたします。

☆当日参加者

- 会員・非会員共に8,000円、学生（学部・大学院生）は2,500円を当日受付にてお納めください。
- 名前の用紙をお受け取りの上、ご所属・ご芳名をご記入ください。その後ご自身で名前の用紙に紙紐をつけてくださいますようお願いいたします。

☆大会発表論文集

- 大会ホームページに、大会研究発表・大会プログラムをPDFで掲載いたします。
- 冊子としては配布いたしませんので、当日お持ちするデバイスに取り込んでいただきますようお願いいたします。

2. クローク

- 大会開催中、7階 会議室702にクロークを開設いたしますので、ご利用ください。
- 貴重品はご自身で保管してください。
- クロークの開設時間：11月16日(土) 9:00 ～ 17:00
11月17日(日) 9:00 ～ 16:00

3. 出店・販売等

- 8階 会議室805・806にて、書籍等の展示販売をしております。

4. 昼食

- 16日は7階 会議室703、17日は8階 研修室810をお使いください。アイーナ1階にはコンビニエンスストアや飲食店がございます。そちらをご利用いただくか、受付に用意してありますパンフレットを参考にお出かけください。

5. 大会本部

- 7階 会議室702に設置してありますので、何かございましたらご連絡ください。

6. 駐車場

- 近隣の有料駐車場をご利用いただくようお願い致します。

7. その他

- 各会場内での写真・ビデオ撮影、講演音声の録音、携帯電話の呼び出し音などはお控えください。
- 基調講演の際の遠隔配信の部屋は8階 会議室803です。

発表者・登壇者の皆様へ

1. 口頭発表について

- ・個人または複数の人が口頭で研究を発表します。
- ・発表者は、10分前までに入室して、機材の動作確認をした上で、座長に出席していることを報告してください。連名発表の場合は筆頭発表者が報告をしてください。時間までに発表者がいない場合、発表は取り消しとなります。なお、動作確認は発表の10分前から可能です。
- ・発表は1発表につき20分です（15分発表、5分質疑応答。）開始から12分、15分、20分に合図の鐘を鳴らします。
- ・各分科会の最後に全体討議を行います。
- ・各分科会にコンピュータ等の設置はありません。ご自身のPCやタブレット等（HDMIケーブルのみ接続可能）をご持参ください。Macをご使用される場合は、ご自身のPCと変換ケーブルをご持参ください。
- ・「口頭発表」と「全体討議」に参加することによって、公式発表と認められます。
- ・発表の際の配布資料は30部程度ご用意ください。当日、印刷できる場所はありません。分科会の会場学生スタッフ係へお渡しください。

2. ポスター発表について

- ・ポスター発表は、発表者は「責任発表時間」の間、自分のポスター掲示場所に在席していなければなりません。
- かつ、ポスターは所定の箇所に「掲示時間」の間、掲示する必要があります。
- 割り当てられた部屋にボードがありますので、そのボード（縦180cm、横90cm）の1面を使用して研究を発表してください。
- ボードのサイズにおさまるポスターの準備をお願いします。
- ポスター発表は、11月16日（土）と17日（日）に開催し、どちらかに割り振られます。
- 発表日の指定された時間までにポスターを掲示してください。また、「責任発表時間」は両日とも9時20分～10時50分です。
- 偶数は前半45分、奇数は後半45分に「説明時間」を設定しています。
- なお、「掲示時間」は16日、17日とも9：20～16：40となります。

3. 自主シンポジウムについて

- ・自主シンポジウムにつきましては、企画者と司会者がシンポジウムの流れを事前に打ち合わせをして、話題提供者と指定討論者はその指示に従ってください。コンピュータについては、口頭発表者と同様です。上記を参照ください（各登壇者がご自身のPCやタブレット等をご持参、HDMIケーブルのみ接続可能、等）。

4. 発表者欠席の場合

- ・筆頭発表者が欠席した場合は、発表取消とみなします。ただし、大会本部に連絡の上、連名発表者が発表することは認められます。
- ・連名発表者は、原則として筆頭発表者と同じ分科会にご参加ください。特別な事情がある場合は大会本部にお申し出ください。

研究発表座長の皆様へ

- ・座長は担当分科会開始10分前までに発表会場にお越しください。
- ・分科会開始前に、座長間の打ち合わせをお願い致します。
- ・発表者の発表時間帯を原則お守り下さい。
- ・発表辞退があった場合、辞退者の発表時間の20分は空き時間としてください。プログラム記載に合わせた時間配分をお願いいたします。
- ・分科会終了時に、発表辞退者（不在者）等の確認用紙を各分科会の学生スタッフへご提出ください。

演題：生成AIで世界はこう変わる



今井 翔太 (Shota Imai)

東京大学 大学院工学系研究科
技術経営戦略学専攻 松尾研究室

プロフィール：

1994年、石川県金沢市生まれ。2024年、
東京大学大学院 工学系研究科 技術経営戦略学専攻
松尾研究室におけるAIの研究で博士（工学）を取得。
人工知能分野における強化学習の研究、
特にマルチエージェント強化学習の研究に従事。
ChatGPT登場以降は、大規模言語モデル等の生成AI
における強化学習の活用に興味。
生成AIのベストセラー書籍『生成AIで世界はこう変
わる』（SBクリエイティブ）著者、
その他著書に『深層学習教科書 ディープラーニング
G検定（ジェネラリスト）公式テキスト 第2版』（翔泳
社）、
『AI白書2022』（角川アスキー総合研究所）、訳書にR.
Sutton著『強化学習（第2版）』（森北出版）など。

震災と子どもの危機

—保育に関わる者だからできること、すべきことは何か—

企画 保育臨床検討委員会

話題提供者 佐々木栄光（岩手県大槌町 幼保連携型認定こども園みどり幼稚園園長）

宮下友美恵（全日本私立幼稚園幼児教育研究機構・静岡豊田幼稚園園長）

菅野信夫（保育カウンセラー 元京都橘大学）

指定討論者 井上孝之（岩手県立大学）

司会 岩立京子（東京家政大学）七木田 敦（広島大学）

企画趣旨

日本では、近年、およそ十数年ごとに、阪神・淡路大震災、東日本大震災、能登地震などが発生し、子どもや子どもを取り巻く人々の日常の生活環境、教育・保育等の営みが、一瞬のうちに破壊される災害が生じている。河川の氾濫等による災害も含めれば、短いスパンで自然災害が生じている。自然災害は人間が完全に防げるものではない。私たち、乳幼児の保育・教育に関わる者は、このような震災の脅威に対して何ができるのか、何をすべきなのか。災害が子どもや保護者に及ぼす影響の理解、震災直後あるいはより長いスパンでの支援、震災後の保育の立て直しあるいは新たな保育の創造、被災地の保育関係者等を含む当事者の葛藤や、当事者への支援、未来の保育者への命の教育など、災害という視点から、問い直すべき概念、課題は多い。本シンポジウムでは、様々な立場から、支援のあり方について話題提供していただき、見える支援だけでなく、見えない支援を浮き彫りにしていきたい。

1 東日本大震災の経験から今、思うこと

佐々木栄光（認定こども園みどり幼稚園園長）

平成23年3月11日に発生した東日本大震災津波では、2階建て園舎の2階まで浸水する施設被害を受けたものの、事前に策定していた津波避難マニュアルにより、指定避難場所へ園児を無事避難させることができた。その後の初動対応として、不明園児の安否確認に奔走し、混乱期から一定の落ち着きをみて緊急避難的に空き施設の借用が叶い、保育に必要な諸物品は日本ユニセフ協会よりプッシュ型緊急支援を受け、保育の再開を果たした。震災後の保育立て直しの意義については、荒廃した地域環境に置かれ続ける幼児の心理的影響、発達段階に応じた適切な環境に関わる日々の

経験の喪失が及ぼす影響、そして保護者の生活再生活動に伴う子どもの預かりという側面での施設の役割であると感じた。発災から幾多の変遷を経て園舎の復旧、復興に至った現在、東日本大震災から13年を経て、今思い、未来の保育者へ伝えたいことは、保育に携わる者の責務として、突然襲ってくる自然災害のリスクから子どもたちの命をどう守るのかということである。そこで求められるのは、熟考された避難マニュアルと適切な運用に他ならない。非常時において子どもたちの生死は保育者の指示によって決まるということを念頭に、マニュアルの策定にあたり重要なことは「正常性バイアス」の理解と共に、予想される災害に対して、リアリティをもって俯瞰した視点、想察の下計画立て、見直しを重ねることであると考える。そうした事前の備えがあればこそ、不測の事態においても的確な判断と行動で子どもたちの命を守ることができるものと震災の経験から学び、そして未来の保育者に伝えられたら幸いである。

2 震災に関わる映像記録を通して、共に学び合う

宮下友美恵（全日本私立幼稚園幼児教育研究機構副理事長、静岡豊田幼稚園園長）

全日本私立幼稚園幼児教育研究機構では、東日本大震災から半年ほど経過した時に、被災された園の保育者にインタビューし、その記録を「証言」として映像に残した。また、大震災が子どもたちに与えた影響について探り、心に大きなダメージを受けた子どもたちが幼稚園に再び通い始めることで、傷ついた心をどのように癒していったかを映像にまとめた。さらに、福島第一原発の事故により保育環境が奪われ、未曾有の困難に直面した園が、保育の原点に立ち返り、子ども

たちのために最善の保育を目指して努力した3年間の記録を映像で残した。

私たちはこれらの記録を制作するなかで、園が地域の幼児教育・保育の核として、子どもだけでなく、大人にとっても大切な存在になっているということに改めて気づかされた。そして、有事の際、マニュアルに従って行動することは大切であるが、マニュアルを超えて判断しなければならないこともあり、その判断の難しさも強く感じた。また、インタビューで「困難の中にあっても、保育をすることで、前を向いて生きることができた」と語ってくださった保育者の言葉も強く心に残った。

保育に関わる多くの人たちとこれらの映像記録を共有することで、私たちは様々なことを学び合うことができる。今後起こるであろう自然災害に対して、私たちは保育者として何ができるのか、すべきことは何なのかを、広域ネットワークをもつ幼児教育関連団体の役割も含めて参加者と共に考えていきたい。そして、保育の専門職として子どもの命を守り、健やかな育ちを支えるための努力をしていきたいと考える。

3 自然災害時の保育支援—子ども達、保護者の心のケアから、支援者を支援するネットワークの構築へ— 菅野信夫（保育カウンセラー、元京都橘大学）

「震災と保育」というテーマのなかで、保育者は園児や保護者に対してどのような支援ができるのか、そのために保育者自身にはどのような支援が必要となるのかについて、こころのケアを中心に据え、保育カウンセラーの立場から考えてみたい。

ここではまず、災害によるストレスの反応を年代別、時系列に沿って整理し、それぞれの状況下での対応において留意すべき点を検討した。

基本は、子どもの成長する力を信頼し、遊びで表現される発信をしっかりと受け止めること。そして子どもの主体性を尊重すること。これらは特別なことではなく、普段の保育で実践されていること変わらない。保護者については、語りをしっかりと聴き、傍らに寄り添うこと。これはカウンセリングでの受容と共感に当たるが、心理的支援には物理的な環境の整備（安全な居場所と安心できる人間関係）が前提となる。

最後に、支援に関わる保育者を孤立させないための方法として、園内協働、専門家との他職種連携、住民も含めた地域内連携を紹介した。支援者が支援される

という支援のネットワーク作りは今後ますます必要とされるのではないだろうか。その結果、園が地域のコミュニティとして展開し、支援の継続に向けて発展していくことを期待したい。

4 子どもの命の隣にいる覚悟

井上孝之（岩手県立大学）

2024年8月、「南海トラフ地震臨時情報」が発表された。地域の催しが中止されるなど、津波が想定される地域の人々の不安はいかほどだったろう。

佐々木氏の東日本大震災を経験された言葉は非常に重く、甚大化する自然災害（とりわけ予測が困難な大地震）から子どもの命を守ろうとする覚悟が感じられる。同様に、宮下氏らが取りまとめた「証言」は、当時の被害状況を伝え、懸命に保育を立て直そうとする保育者の姿を捉えている。「証言」は、その覚悟を次の時代に繋げる絆となるものであろう。

震災からの復興には多様な職種の支援が必要である。心理的ケア無くして被災地の人々は平静を保てない。

「復興は長距離マラソン」と言われる。園を地域のコミュニティとしてネットワーク化し継続的な支援を構想する菅野氏の提言は非常に興味深い。

保育は子どもの育ちを扶ける営みである。予測不能な震災は突然襲ってくる。しかし、常時職員体制が整っているとも限らない。最大限の想像力と決断力を持って、「子どもの命は私が守る」の覚悟でないと、災害時には大きな後悔をしてしまう。子どもは園で預かり決して迎えに来た保護者に返してはいけない。

避難訓練のマニュアルは園が独自に作成する必要がある、定期的な見直しも必要である。訓練では平坦な道路や階段も、災害では瓦礫が散乱して子どもは通れないかもしれない。避難所での数日間の生活を想定して、備蓄品を準備しておいたり、園を取り巻く地域と協働してあらゆる想定のもとにマニュアルを作成したりすることが大切な準備である。その際にはPFA（サイコロジカル・ファーストエイド）の読み合わせなども行いたい。

保育者は、子どもの生命の保持と情緒の安定を図ろうと努力するであろう。しかし、保育者自身も被災者であり、家族もいる。一度災害が起きれば、保育者自身も数日は自宅に戻れないことを、あらかじめ家族に伝えておく必要もあろう。保育者は常に子どもの命の隣にいる職業なのである。

“生成AI” vs “NI” 生成AIは保育に必要なのか？

話題提供者1：高橋 健介（東洋大学）

保坂 佳一（Childcareweb社代表）

木村 創（向山こども園）

話題提供者2：古賀 琢也（千葉明德短期大学）

深谷ベルタ（千葉明德短期大学）

松延 毅（小池保育園、出雲崎保育園）

2022年以降、AIがもたらす社会にもたらすインパクトが強調されてきましたが、2024になるとそのインパクトにも限界があるという見方が広まり、AI関連の企業の株価高騰も一時の急激な上昇から、多少落ち着きが見られるようになりました。一部のエコノミストは、この社会的な変化を、AIを取り巻く環境が社会に認知され、AIが社会に受容されたことの現れとして捉えているようです。テレビや冷蔵庫、洗濯機が“三種の神器”から“家電”として私たちの生活にとって当たり前のモノになってきたように、AIも私たちにとっての“家電”になるのでしょうか？

本シンポジウムでは、はじめに、保育実践においてAIを活用する事例をもとにAIの可能性と限界について話題提供していただきます。次に、保育実践において保育者達がかかわる中で学び合う事例をもとに、実践の中で自然知を積み重ねていくことの可能性と限界について話題提供していただきます。

そして、この2つの話題提供をもとに、生成AIとNIとが保育という場にどのような地平をもたらすのか、議論を深めていきます。

保育における劇表現と生成AI

指定討論 花輪 充（東京家政大学）
司会・話題提供 田宮 希砂（仙台青葉学院短期大学）
話題提供 高橋 恵美（東北生活文化大学短期大学部）

企画趣旨

近年 AI や ICT は目覚ましい発展を遂げ、日常生活の中に普及している。文部科学省は、Society5.0の社会として AI 等の先端技術が教育や学びの在り方に改革を与える¹⁾としており、これからの時代を生きる子どもたちの生活では今後ますます身近に AI や ICT が存在すると考えられる。

保育現場で慣例的に行われている表現活動の一つとして、劇的表現・劇的活動がある。本シンポジウムでは、AI・ICT が保育の事務的業務や保育内容を展開するための一機器として参入し始めていることに着目し、この劇的表現の在り方について検討を行う。映画や演劇などの分野では、生成 AI を用いたシナリオの作成やアバターの活用などが取り入れられ、新しい表現方法が次々と生まれている。しかし、これらの商業的な分野における新たな手法が、教育現場においても取り入れられる時代の到来が一部では懸念されている。

保育における劇的表現では、子どもが自発的・主体的に「自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりするなどの楽しさを味わう」²⁾姿が日常の遊びの中で見受けられている。つまり、保育の劇的表現にはそこに生きる子どもの「今」が現れるものである。このような人と人との関わりの中で心身を動かされ、表現したり表現を受け止めたりすることによって感性が育まれていくと考える。では、その表現するという場面において、果たして「AI」は、必要なのだろうか。今後ますます普及するのであろう生成 AI を、表現技術の一つとして取り入れることによって利便性が高まる一方で、乳幼児・児童の教育体系にダイレクトに取り入れていくことに関しては不安も否めない。

技術の進歩によって生まれる新たな劇的表現の可能性と、現代だからこそ大切にしたい保育の視点、この両方の観点から、これからの表現活動について考えていく。

話題提供 1

保育者養成校の学生による、文章生成 AI と画像生成 AI を活用した劇作りの実践

(1) 文章生成 AI を使用し、劇の台本を生成する。

二人一組ずつのグループになり、意見を出し合い、協力してプロンプト（指示や質問）を入力し、台本作成に取り組む。全グループ共通のプロンプトは、話し合いから「子ども 劇台本 冒険」に設定した。さらに、各グループで独自のプロンプトを加えることも課題とし、作業を開始した。「宇宙」「ファンタジー」「友情物語」などのキーワードや、「家族の絆が深まるお話」「王子様とお姫様が登場する素敵な台本を作って」など、生成 AI と会話をするかのような文章を入力した。他にも、プロンプトに加える語を工夫しながら指示を与え、文章の表現や質問を変えて繰り返し試し、台本作成を行った。このプロンプトの書き方次第で、導き出される回答が変化していくことがわかり、結果、AI に対して具体的に且つ明確に要望を伝えることが必要だと分かった。

(2) 画像生成 AI を使用し、イメージ画を生成する。

文章作成 AI で作成した劇の台本を読み合わせる際に、共通イメージを持つ目的として、場面ごとの画像を生成した。文章生成 AI 同様、プロンプトに語や文章を入力して作成したが、背景や表情等の詳細を指示する説明が難しく、イメージする画像に辿り着くまで何度も繰り返し試し作成した。使用した AI ソフトでは、プロンプトを入力すると一度に数枚の画像が提案されるので、その中からよりイメージに近いものを選択した。

(3) 子どもたちを観客に、生成 AI で作成した台本を使用し、劇「魔法の森の冒険」の実演を行う。

実演後の学生は、「AI を活用して作成した台本であっても台詞の話し方や動き等、演者の表現によって伝わり方は違う」「観客の子どもたちの反応も加わったことで心が動いた」と評価していた。

(4) 保育者養成で求められ続けること。

AI 社会を考えるにあたり「直接体験をしなくとも間接体験だけで物事をわかったつもりになってしまう」という懸念も耳にするようになった。AI 活用が一般化する時代において田坂(2019)は、言葉を使わないコミュニケーション力・体験的共感性といった資質が重要になる³⁾とあげている。これからの保育者養成校にお

ける学びの在り方も、内面から出てくる魅力を持ち備えている人を育てることが、これまで同様に求められ続けていくのだろう。

(高橋 恵美)

話題提供 2

生成 AI を活用した劇あそびから考える保育者に求められる役割

筆者は、保育の劇あそびに生成 AI を使った A 保育者にインタビューを実施した。ここから生成 AI を活用した保育の結果と保育者の役割について検討する。

(1) 3 歳児劇あそびにおける生成 AI 活用の事例

A 保育者は、担任していた 3 歳児クラスの子どもたちが好きなお店屋さんごっこをモチーフに、劇遊びを展開できないかと考え、子どもたちが好きな既存の話のような劇遊びの台本を作ることとした。そこで、子どもたちの好きなもの（話や遊び）から劇の台本を作ってほしいと生成 AI にかけてところ、自分が予想していなかった視点の台本が提示された。A 保育者は、その生成 AI が提示した台本を参考にしつつ、子どもたちの言葉を導き出す形で劇あそびを継続していった。

(2) 実践の結果と課題

A 保育者のインタビューから、保育者が考える生成 AI の活用に関する思いとして次の 3 点が挙げられた。

① アイデアの抽出を目的とした AI の使用

A 保育者は生成 AI から「ヒントをもらえた」と述べており、生成 AI の提示した台本をそのまま保育で使用するのではなく、あくまでもアイデアを得るための素材として活用していた。A 保育者は、目の前の子どもたちにとって最良の保育方法を検討するために生成 AI を活用し、このことは、これまで保育者が行ってきた保育の準備や工夫と大きく違うものではないとしている。

② 業務軽減の役割としての AI の活用

劇あそびにおいて生成 AI を使用したことによって、検索等にかかる時間の短縮について A 保育者は述べており、生成 AI がデータベースとしての活用がされたことが明らかになった。

③ 保育の言語化の必要性

A 保育者は、「(人間が) 言語化できないと AI は使えない」と語っており、保育で生成 AI を活用する場合にも、子どもの姿や興味関心を見取る力と、それを言語化する力が必要だと考えていた。各保育者がそれぞれ子どもの姿を言語化することが、生成 AI を活用した保育を画一的なものではなく、個々に異なる保育にす

るのではないかと思案している。

(4) AI 時代に保育者に求められる専門性

本インタビューの中で一貫して A 保育者が語っていたことは、結局は目の前の子どもの姿を見ることが保育者にとっては重要であるということであった。新しい時代に新しい技術を活用するにおいても、劇遊びに限らず保育は子ども理解に基づくことが再確認された。

(田宮 希砂)

指定討論

企画趣旨にもあるように、これからの時代を生きる子どもたちにとって、生成 AI の存在はますます身近なものとなるだろうし、それによって子どもが獲得する成果、突きつけられる課題は、今後想像の域を超えるものとなるかもしれない。いつの時代も文化の発進・推進役は大人である。子どもたちは大人が理想とするコンテクストの上を歩み続けていく以外ない。たとえそれが子どもたちにとって自身の成長プロセスに不適合だったとしてもである。だからこそ、コンテクストはあくまで子どもを真ん中にして語られなければならない。満を持して大人が保育の世界に持ち込んできた最新のコンテンツが生成 AI ならば、少なくとも、乳幼児期の子どもたちの心身の成長発達プロセスを勘案したうえで、慎重に導入を考えるべきである。新たな時代の潮流は、大人も子どもも見境なく丸飲みに行っている。その結果、それぞれのテンポに見合わない生き方が常態化し始めているようにも感じてならない。

本シンポジウムでは、高橋氏、田宮氏の話題提供を受け指定討論者の立場から、1) 演劇とは、2) 演劇と教育、3) 幼児期の劇活動の本質、4) 保育における劇活動の意義、5) なぜ幼児教育に劇活動は必要なのか、6) 子どもの表現行為、表現活動に生成 AI はいかに貢献できるのか、以上 6 点について問題提起をするとともに、AI や科学技術の発達によって問われる人間力の重要性について検討していきたい。

(花輪 充)

引用文献

1. 文部科学省(2018)「Society 5.0 に向けた人材育成～社会が変わる、学びが変わる～」

https://www.mext.go.jp/component/a_menu/other/detail/_icsFiles/afieldfile/2018/06/06/1405844_002.pdf

2. 文部科学省(2018)「幼稚園教育要領」フレーベル館

3. 田坂広志(2019)『能力を磨く AI 時代に活躍する人材「3つの能力」』日本実業出版社, p153

音楽表現と生成 AI

企画・進行：駒 久美子（千葉大学） 指定討論：麓 洋介（愛知教育大学）

話題提供：村山 大樹（帝京平成大学）・仲条 幸一（つくば国際短期大学）・味府 美香（東京成徳大学）

1. 企画趣旨

駒久美子

「AI 戦略 2019」（統合イノベーション戦略推進会議決定、2019 年 6 月）では、大目標のひとつに「全ての高等学校卒業生が、『理数・データサイエンス・AI』に関する基礎的なリテラシーを習得」することが示されている。一方、中央教育審議会による『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」（2021 年 1 月）では、ICT 活用の基本的な考え方として、学校教育の質の向上に向けた ICT の活用や、ICT の活用に向けた教師の資質・能力の向上、ICT の環境整備の在り方が挙げられている。さらに、2022 年 11 月には ChatGPT が公開され、教育現場においても急速に普及している。

保育者養成における表現教育においても、こうした情報活用能力の育成が求められている。企画担当者の駒は、ICT を活用した表現活動を授業に取り入れる一方で、生成 AI については駒自身が活用することはあっても、授業に取り入れたことはない。さらに、保育現場においても、ビジュアルプログラミングやプロジェクションマッピングといった ICT を活用した表現活動の実践には出合っているが、生成 AI を活用した実践にはいまだ出合っていない。しかも、ビジュアルプログラミングやプロジェクションマッピングでは、音楽表現よりも造形表現がメインの表現活動である。ICT の活用ですら、音楽表現活動はほとんど見られないなかで、生成 AI を活用した音楽表現は、保育現場において極めてハードルが高いといえる。

そこで本シンポジウムでは、3 名の登壇者に、ICT の活用から生成 AI の活用まで、保育現場や保育者養成校の実践例を中心に話題提供いただく。まず ICT の活用として子どものプログラミング的思考を引き出すトイオ・プレイグラウンドの監修に携わる村山大樹氏に、トイオ・プレイグラウンドの遊びの意義について発表いただく。次に、このトイオ・プレイグラウンドを保育現場で活用した実践例と、公立幼稚園で生成 AI を活用した実践例について仲条幸一氏に発表いただく。最後に、保育者・教員養成における事例として、音楽の生成 AI を授業で活用した実践例を味府美香氏に発表いただく。以上の話題提供をふまえ、麓洋介氏に指

定討論いただき、フロアの皆さんと議論を深めたい。

2. トイオTM・プレイグラウンドの遊びの意義

村山大樹

トイオ・プレイグラウンドは、ソニー・インタラクティブエンタテインメントが開発したプログラミング玩具である。その特徴として、カードとキューブ型ロボットのみのシンプルな操作性、身近な物と組み合わせで遊べる汎用性、そして実物を用いる身体性が挙げられる。直接「物」に触れることで、プログラミングを直感的に体験できる。また、自身の理想とする動きに近づけるための工夫と修正、ひらめきと即興、そして時に子どもならではの力技（キューブを手動で都合の良い向きに変えてしまうなど）を、遊びの中で即座に試して確かめることができる。

村山は、2012 年から幼稚園教諭として ICT 活用に取り組み、2018 年より幼児向けプログラミング活動に関する研究（科研費、若手研究、18K1313、研究代表者：村山大樹「幼児教育における ICT の活用～年齢別プログラミング体験活動プログラムの開発～」）に取り組んだ。その結果、子どもたちがデジタルの世界の原理を体験するための身体性を伴う遊びを大切にすることが留意点の 1 つとして見出された¹⁾。ここに、トイオ・プレイグラウンドの特徴が合致すると考えられる。

現在、トイオ・プレイグラウンドを用いた活動案の開発を進めている²⁾。子どもが、自ら定めた課題を解決する手段としてトイオ・プレイグラウンドを活用し、失敗も楽しみながら試行錯誤し、納得解を得るプロセスを大切にしている。これは小学校プログラミング教育のねらい³⁾とも親和性が高く、保幼小接続の観点からもその意義を捉えられると考える。すなわち、トイオ・プレイグラウンドの遊びが、広汎的な資質・能力の育成、特に非認知能力の育成に寄与する可能性が見出されるのである。

生成 AI を含むデジタルサービスは、全て人によってプログラムされている。プログラミングの体験から「デジタルは、自分の思いを形にするためのパートナーである」という感覚を養うことが重要であり、これは生成 AI の活用にもつながる視点であろう。トイオ・

プレイグラウンドの遊びが、子どもとデジタルの世界との最初の出会いの一助となることを志向し、引き続き研究を継続していく。

※toioTMおよびトイオTMは、株式会社ソニー・インタラクティブエンタテインメントの登録商標または商標です。

3. 公立幼稚園における生成 AI 活用：簡単な歌づくりの事例から考える「簡単」とは

仲条幸一

仲条からは次の2点について話題提供を行う。

1つ目は、前述の村山大樹氏が監修されているトイオ・プレイグラウンドを、仲条が非常勤講師を務めるH私立幼稚園で活用した実践事例について紹介する。実践の概要と、実際の子どもの反応を紹介した上で、トイオ・プレイグラウンドを活用した幼児の音楽表現について、その援用可能性に関する提言を行う。

2つ目は、茨城県T公立幼稚園における生成AI活用の事例である。T公立幼稚園では、8月に園庭で開催される夏祭りで使用する楽曲として、オリジナルの歌を制作することが検討された。その検討の中心的存在であった園長は、楽曲制作にあたって3つの生成AIを活用した。具体的には次の手続きである。

①キーワードの収集：年長クラスの子どもたちと共に、夏祭りからイメージされるキーワードを収集した。

②作詞 AI による歌詞生成：収集したキーワードを基に、作詞AIで歌詞を生成。しかし、生成された歌詞には改善の余地があったため、他の生成AIを用いて「もう少し親しみやすい歌詞に整える作業」を行った。

③作曲 AI による音楽生成：整えられた歌詞を作曲AIに入力することで、歌のメロディーと伴奏が生成された。その完成した楽曲を子どもたちに披露したところ、子どもたちは夏祭りの前からこの楽曲を口ずさむようになり、夏祭り当日も流し続けることで保護者にも楽しんでいただくことに成功した。

④生成された歌の評価：子どもたちはこのオリジナルの歌を親しみながら覚え、園長先生もこの歌を「ノリが良い」と評価した。

話題提供にあたっては、上記の手続きについて、いくつかの補足内容を示した後、実際に制作された歌について視聴していただく。その上で、今回の事例のように、簡単に制作できる歌に関して、「簡単」と認識される内実を整理し、仲条の所懐を述べる予定である。

なお、本シンポジウムでの発表にあたって、T公立幼稚園長に快諾をいただいた上で、制作された歌のデ

ータ提供を受けた。改めてここに御礼を申し上げる。

4. 保育者・教員養成校における自動作曲の実践報告

味府美香

味府は、保育者・教員養成校の授業の一つとして、2021年度よりプログラマーと共同で「音楽×デジタル」をテーマにICTやAI等を活用した新しい音楽表現についても模索している⁴⁾。その中から今回は保育者・教員養成校及び音楽大学で取り扱った生成AIによる自動作曲を紹介する。

現在、生成AIによる自動作曲システムやアプリは、音楽の初心者からプロを対象としたもの、無料のものや有料のものまで数多く開発されているとともに、それらの進化とそのスピードは年々増すばかりである。自動作曲の最も早期の作品としてあげられるのは、1956年の《弦楽四重奏のためのイリアック組曲》であり、50年以上もの間、作曲家と自動作曲は共存して音楽をつくってきたのである。しかし、AIが身近になった今日、自動作曲により、音楽を専門としない誰もが容易に音楽をつくることが可能となり、音楽・音楽表現の在り方が変わってきている。これに加え、教育分野でのICTやAI等の活用が示されたことにより、保育所や幼稚園、学校での音楽活動における音楽表現も変容してきている。

本シンポジウムでは、保育者・教員養成校の学生が自動作曲でつくった作品を紹介しながら、自動作曲の音楽的特徴に着目する。また、学生たちのコメントや議論を通して浮かび上がってきた、①学生たちが自動作曲の何を楽しみ、②音楽をつくることに対して何をを感じるのか、③将来、子どもたちとの音楽表現にどのように取り入れたり、いかしたり出来ると考えるのか、について内容を整理し紹介するとともに、これらを通して、自動作曲が音楽表現としてどのような可能性や課題を持つのかについてさらに検討する。

【注】

1) 村山大樹「プログラミング的思考に留意した幼児向けプログラミング活動に関する実践研究」『研究論集』第11号、帝京平成大学児童学科、pp. 79-86、2021

2) WEBページ「トイオ・プレイグラウンド 遊びのミッション集」：
<https://toio.io/playground/mission.html>

3) 文部科学省『小学校プログラミング教育の手引き（第三版）』2020

4) 味府美香・間野健介「AIによる自動作曲に関する一考察」『子ども学部紀要』第14号、東京成徳大学、pp. 39-49、2024

保育現場とAIとの現状と子ども文化の未来

—これからの未来の保育のあり方について真剣に考える、実践する—

司会・企画趣旨（指定討論）：田中 卓也（育英大学）

話題提供者1：橋口 大祐（鹿児島県認定こども園吉田南幼稚園・園長）

話題提供者2：亀山 秀郎（兵庫県学校法人七松学園認定こども園七松幼稚園・園長）

話題提供者3：原山 青士（大阪キリスト教短期大学・特任准教授）

話題提供者4：大澤 香織（株式会社スマートエデュケーション）

深谷ベルタ（千葉明德短期大学）

松延 毅（小池保育園、出雲崎保育園）

＜企画趣旨＞

本企画シンポジウムでは、保育現場でのAI活用を通じて、将来の保育のあり方について考えるものである。子どもの発達にはICTやメディアとふれる機会は重要であり、子どもの遊びをはじめとした子どもの文化に大きな影響を与えることになると考えられる。いまやこのことは多くの保育現場に限ったことではなく、保育者を輩出する保育者養成校においても、普及のために活発な議論も行われ大きく取り上げられているようになっている。では子どもの文化が衰退しないためにも、どのような取り組み・方策が必要であるのかをじっくり考える機会が必要であろう。本シンポジウムでは、この問題に真剣に取り組む、先進的模範的活動を行う保育現場の園長先生をはじめ、保育者養成なかでICT活用に積極的に取り組んでいる大学教員、また保育現場や大学との連携協力でつながっている企業の方にお越しいただき、活発な議論を期待しよりよい方策を提案できればと考える。

“AI”と保育者による子どもの“夢中度”写真対決シンポジウム

あなたは、AIが撮った写真、保育者が撮った写真、どちらが子どもが夢中に見えますか？

司会・話題提供 平山 淑希（仙台青葉学院短期大学・玉川大学大学院）

話題提供 佐藤みちる（宮城教育大学附属幼稚園）

話題提供 山中健太郎（株式会社VisionWiz『とりんく』）

指定討論 野澤 祥子（東京大学）

これまでも幼稚園・保育園では、写真という媒体は多く使われており、誕生会や運動会などの行事では、地域の写真館に撮影を依頼し、親向けに販売などを行ってきた。とくに、近年では、保護者向けのサービスとしての写真だけではなく、写真を用いた保育カンファレンスが日常的に行われたり、計画や省察において作成されるドキュメンテーションに写真が取り入れられたり、カリキュラム・マネジメントのPICAサイクル上で実践での写真を用いている園は多く見られる。そのため、最近では日常的な保育の中で、保育者は常にカメラを持つようになり、日々の保育実践を写真によって記録する姿が当たり前のように見られるようになった。

保育実践の場で、写真の需要が増える状況において、さまざまなサービスが提供されるようになってきた。本シンポジウムでは、とくに、AIを用いた写真撮影、選定サービスを行う『とりんく』に焦点をあて、その協力を得て、AIを用いた保育実践における子どもの遊び場面の撮影を行う。この『とりんく』は、iphoneを保育者が首から掛けて保育を行うと、子どもたちの表情や姿勢、視線などの情報を手掛かりに自動で撮影を行うだけでなく、撮影した写真があるキーワードに沿って選定したり、子どもの一人一人の顔を認識して分類したり、さらには不必要な情報（例えば、隣にいる友達の顔）はトリミングして消すことができる非常に便利な機能を持つ。

保育者が日々子どもと向き合う中で撮影している写真と、生成AIが撮影する写真、どちらが子どもの内面を写し出すことができるのだろうか？

幼児教育・保育の「時代遅れ」と「最先端」の境界を考える

企画者：加藤 望（名古屋学芸大学）
司会者：七木田 敦（広島大学大学院）
対談者：中川 順子（広島大学附属幼稚園）
加藤 望（名古屋学芸大学）

神奈川県に、園バスも制服も鉄製の大型遊具もない幼稚園がある。ある女性が、自身の理想とする幼稚園を作ろうと 1998 年に設立した私立幼稚園である。『時代遅れの最先端』と銘打つこの幼稚園は、自然豊かな環境で、体をぶつけ合うラグビーや、年少児から工具を使っている木工遊び、落ち葉の焚火による焼き芋などを保育内容に取り入れている。

本学会企画では、この幼稚園を舞台として 2022 年に制作されたドキュメンタリー映画『時代遅れの最先端—風の谷幼稚園の子どもたち—』を視聴し、「時代遅れ」と「最先端」の境界について語り合う機会としたい。保育者養成の教育を担う大学教員と、自然豊かな幼稚園で保育実践を重ねている幼稚園教諭が、この映画の内容について対談形式で語り合いながら、参加者の皆さんと一緒に VUCA（変動的で不確実、複雑で曖昧な）時代を生きる子どもたちの幼児教育・保育を考えたい。

自主シンポジウム I-1

11月16日(土) 11:00～12:30

〔会場〕 会議室 803

子どもの声からはじまる保育アセスメント

—ラーニングストーリーを取り上げて—

企 画	松井 剛太	(香川大学)
司 会	松井 剛太	(香川大学)
話題提供	中西 さやか	(佛教大学)
	水津 幸恵	(三重大大学)
指定討論	亀ヶ谷元讓	(幼稚園型認定こども園宮前幼稚園、幼保連携型認定こども園 宮前おひさまこども園)
	大宮 勇雄	(仙台大学)

自主シンポジウム I-2

11月16日(土) 11:00～12:30

〔会場〕 研修室 810

子どもが「わからない」を考える

企 画	長野 未来	(名古屋市立大学大学院)
	天野 諭	(立命館大学大学院／日本学術振興会特別研究員)
司 会	長野 未来	(名古屋市立大学大学院)
	天野 諭	(立命館大学大学院／日本学術振興会特別研究員)
話題提供	天野 諭	(立命館大学大学院／日本学術振興会特別研究員)
	松原 未季	(大阪信愛学院大学)
	本岡美保子	(比治山大学)
	長野 未来	(名古屋市立大学大学院)
指定討論	淀川 裕美	(千葉大学)

自主シンポジウムⅡ-1

11月16日(土) 15:10～16:40

〔会場〕 会議室803

これからの保育者養成および保育現場とICTの活用と課題について考える

企 画	田中 卓也	(育英大学)
司 会	田中 卓也	(育英大学)
話題提供	田中 卓也	(育英大学)
	田中 浩之	(群馬医療福祉大学)
	海津 雅彦	(群馬医療福祉大学)
	安氏 洋子	(長野県立大学)
	山本 麻美	(名古屋女子大学短期大学部)
指定討論	小島千恵子	(あいち保育研修研究協会)
	岡部 祐子	(松山東雲女子大学)

自主シンポジウムⅡ-2

11月16日(土) 15:10～16:40

〔会場〕 研修室810

固定遊具での遊びの面白さとリスクを考える

～すべり台を中心に～

企 画	箕輪 潤子	(武蔵野大学)
司 会	大澤 洋美	(東京成徳短期大学)
話題提供	箕輪 潤子	(武蔵野大学)
	栗原 啓祥	(認定こども園 清心幼稚園)
	園田 修一	(日向なないろ保育園)
指定討論	馬場耕一郎	(おおわだ保育園世田谷豪徳寺)
	久留島太郎	(植草学園短期大学)

自主シンポジウムⅡ-3

11月16日(土) 15:10～16:40

〔会場〕 研修室811

保育者らの語り合いにおける安心感の検討

企 画	谷 昌代	(北陸学院大学)
	熊田 凡子	(関東学院大学)
司 会	熊田 凡子	(関東学院大学)
	谷 昌代	(北陸学院大学)
話題提供	熊田 凡子	(関東学院大学)
	藤井 千里	(金沢泉丘こども園)
	本江 理子	(富山国際大学)

自主シンポジウムⅡ-4

11月16日(土) 15:10～16:40

〔会場〕 研修室811

就学移行期における生成的なカリキュラム立案と保育者・教師の実践的思考

企 画	岡花祈一郎	(琉球大学)
司 会	岡花祈一郎	(琉球大学)
話題提供	米須 広美	(コスモストーリー保育園)
	山田 剛輔	(茅ヶ崎市立香川小学校)
指定討論	山内 紀幸	(神戸女子大学)

自主シンポジウムⅢ-1

11月17日(日) 15:10～16:40

〔会場〕 研修室811

インクルーシブ保育を考える（3）

～クラスや園をインクルーシブな状態に近づける～

企 画	守 巧	（こども教育宝仙大学）
司 会	守 巧	（こども教育宝仙大学）
話題提供	長谷川幸男	（南台幼稚園）
	若月 芳浩	（玉川大学・四季の森幼稚園）
指定討論	吉川 和幸	（国立特別支援教育総合研究所）

自主シンポジウムⅢ-2

11月17日(日) 15:10～16:40

〔会場〕 研修室814

外国にルーツのある保育者を巡る現状と課題

企 画	ト田真一郎	（常磐会短期大学）
司 会	長澤 貴	（福山市立大学）
話題提供	ト田真一郎	（常磐会短期大学）
	林 恵	（作新学院大学）
	リー プイテン	（本多学園芝南保育所）
指定討論	白石 雅紀	（東京未来大学）

研究発表（口頭発表Ⅰ-1）

11月16日（土）9:20～10:50

【会場】研修室810

座長 吉田 直哉 （大阪公立大学）
井辺 和杜 （広島文教大学）

- 1 中田基昭の現象学的保育学における関係論
吉田 直哉 （大阪公立大学大学院）
- 2 堀合文子はどのように子どもと関わっていたのか
—「やってあげる」ことに着目して—
李 睿苗 （広島大学大学院博士課程後期）
- 3 ワロンの発達論における「姿勢・情動系」の具体
—乳児の「姿勢」及び養育者の支持的行動場面から—
井辺 和杜 （広島文教大学）
- 4 教育における生きられた経験を生じさせる記述=省察
—マックス・ヴァン=マーネン及び村井尚子の思索による—
安部高太郎 （郡山女子大学短期大学部）
吉田 直哉 （大阪公立大学大学院）

研究発表（口頭発表Ⅰ-2）

11月16日（土）9:20～10:50

【会場】 研修室 811

座 長 田中 卓也 （育英大学）
相樂真樹子 （武蔵野短期大学）

1 文献分析に基づく園外保育の歴史と地域環境の意義と課題

石田 佳織 （筑波大学）
藤田 直子 （筑波大学）

2 小学館学年別学習雑誌『小学一年生』における書誌的研究
—学習指導研究会の存在と『よい子』の育成を中心に—

田中 卓也 （育英大学）

3 1920年代の農繁期託児所に関わる団体の特徴と事業展開

相樂真樹子 （武蔵野短期大学）

4 保育雑誌から見る保育士の園外研修の特徴

清水 千里 （名古屋市立大学大学院博士後期課程）

研究発表（口頭発表Ⅰ-3）

11月16日（土）9:20～10:50

【会場】 研修室 813

座 長 淀川 裕美 （千葉大学）
橋本 信子 （安田女子短期大学）

- 1 保育力の向上をめざして
—保育を観る・考える・生かす—
久米裕紀子 （武庫川女子大学）
- 2 低年齢児保育の質評価手法に関する保育実践者の認識
淀川 裕美 （千葉大学）
箕輪 潤子 （武蔵野大学）
- 3 子どもの姿に注目する視点の多様さに関する一考察
～質の高い保育を実現する組織風土の醸成をめざして～
橋本 信子 （安田女子短期大学）
矢野 光恵 （安田女子短期大学）

研究発表（口頭発表Ⅰ-4）

11月16日（土）9:20～10:50

【会場】 研修室 814

座 長 永島さくら （日本女子大学大学院）
上田 敏丈 （名古屋市立大学）

1 低年齢長時間保育の子どもの精神保健面の育ちへの影響

菅原 創 （江戸川双葉幼稚園、聖学院大学非常勤講師）

2 1歳児クラスのふり遊び・見立て遊び

—素材遊びの可能性を探る—

永島さくら （日本女子大学大学院）

織壁佐和子 （フェリシアこども短期大学）

深沢佐恵香 （山梨学院短期大学）

3 人口減少社会において想定される少人数保育の工夫と課題

上田 敏丈 （名古屋市立大学）

4 男性保育者が捉える乳児保育の一考察

山村 拓 （桃山学院教育大学）

研究発表（口頭発表Ⅰ-5）

11月16日（土） 9:20～10:50

【会場】 研修室 815

座 長 山本 直樹 （長野県立大学）
田島 大輔 （和洋女子大学）

1 幼少期の経験と保育職を選んだ動機の関連性について

石田由紀子 （武蔵野大学しあわせ研究所）
兼間 和美 （武蔵野大学しあわせ研究所）
小川 房子 （武蔵野大学）

2 保育者養成校における演劇体験プログラムの開発

—アフターコロナを念頭においた屋外でのウォームアップを中心に—
山本 直樹 （長野県立大学）

3 越境的研修の可能性

～保育を開くという行為に着目して～
田島 大輔 （和洋女子大学）

4 保育者としての保育実践力の育成に関する研究

金戸 憲子 （中九州短期大学 幼児保育学科准教授）

研究発表（口頭発表Ⅱ-1）

11月16日（土） 15:10～16:40

【会場】 研修室 814

座 長 乙部はるひ （帝京平成大学）

村松 直人 （関東学院六浦こども園／田園調布学園大学協力研究員）

1 幼児の保育室の楽器とのかかわりに関する研究Ⅲ

乙部はるひ （帝京平成大学）

2 乳児保育におけるわらべうた実践の相互作用

—自由遊び場面のビデオ・エスノグラフィーを通して—

本岡美保子 （比治山大学）

3 子どもの“つくる”という行為にみられる“現れ”と“表し”

村松 直人 （関東学院六浦こども園／田園調布学園大学協力研究員）

一色 里絵 （平和学園幼稚園／田園調布学園大学協力研究員）

安村 清美 （田園調布学園大学）

4 「物の落下遊び」における幼児の推論の特徴

—3～5歳児の推論特性の比較分析を通して—

小谷 卓也 （大阪大谷大学）

研究発表（口頭発表Ⅱ-2）

11月16日（土）15:10～16:40

【会場】 研修室 815

座 長 森 久美子 （純真短期大学）
宮本 雄太 （福井大学）

1 「保育現場におけるICTツールの利便性評価：Aアプリのケーススタディ」

森 久美子 （純真短期大学）
大久保淳子 （白梅学園短期大学）
内田 千春 （東洋大学）

2 ICTを用いた1・2歳児の身体活動を促す保育環境評価

田中 沙織 （九州産業大学）

3 栽培活動における園の理念や保育者の意識の検討：園の作成文書に着目して

宮本 雄太 （福井大学）
秋田喜代美 （学習院大学）
宮田まり子 （白梅学園大学）
辻谷真知子 （お茶の水女子大学）
石田 佳織 （園庭研究所・筑波大学大学院）

4 「遊ぶ」ことの意味を再考する

—「遊び」を土台に据えた研修の実践から—

鎌内 菜穂 （奈良女子大学附属幼稚園・福井大学連合教職大学院）
穴戸佳央理 （奈良女子大学附属幼稚園）

研究発表（口頭発表Ⅲ-1）

11月17日（日） 9:20～10:50

【会場】 会議室 802

座 長 細田 成子 （聖心女子大学非常勤講師）
岡本 拡子 （高崎健康福祉大学）

- 1 言葉の文化に触れられる保育教材
― 判じ絵となぞなぞカードの類似性から検討する ―
細田 成子 （聖心女子大学非常勤講師）
- 2 Common Worlidingとしての生成変容：保育者－虫関係の事例を通して
山本 一成 （滋賀大学）
- 3 日本に暮らす外国人家庭の言語環境および保護者の子育てに関する意識
岡本 拡子 （高崎健康福祉大学）
佐々木由美子 （足利短期大学）
吉永 安里 （國學院大學）

研究発表（口頭発表Ⅲ-2）

11月17日（日） 9:20～10:50

【会場】 研修室 811

座 長 矢崎桂一郎 （国立教育政策研究所）
松田 登紀 （奈良女子大学大学院 博士後期課程）

- 1 「連続性」概念の拡張
—2010年代以降の日本とスウェーデンの動向から—
矢崎桂一郎 （国立教育政策研究所）
- 2 幼小移行当事者である1年生が語る「小学生になるということ」
—文化的実践と自己の変容の視点から—
松田 登紀 （奈良女子大学大学院）
- 3 審議会の保育政策形成に対する親の納得メカニズム
山中 拓真 （筑波大学大学院）

研究発表（口頭発表Ⅲ-3）

11月17日（日） 9:20～10:50

【会場】 研修室 8 1 3

座 長 亀山 秀郎 （認定こども園七松幼稚園）
最上 秀樹 （学習院大学大学院）

- 1 「問い」生成にみる科学的探究の芽生え(1)：分析枠組みの構築と日・米カリキュラム分析
小林 佳美 （川口短期大学）
松原 憲治 （国立教育政策研究所）
- 2 「問い」生成にみる科学的探究の芽生え(2)：氷・雪の探究事例からの実証分析
亀山 秀郎 （認定こども園七松幼稚園）
小林 佳美 （川口短期大学）
- 3 1歳児クラス7名の水遊びにおける行為プロセスの分析
一月齢と行為の関連性について—
最上 秀樹 （学習院大学大学院 人文科学研究科 教育学専攻 博士課程後期）
- 4 園庭の水が生み出す「もの」と「こと」
～2歳児の水を使った遊びの生態学的分析～
炭谷 将史 （花園大学 社会福祉学部 児童福祉学科）

研究発表（口頭発表Ⅲ-4）

11月17日（日） 9:20～10:50

【会場】 研修室 8 1 4

座 長 山本 陽子 （小田原短期大学）
西尾 千尋 （甲南大学）

- 1 木質化された幼児教育施設における利用の意識変化と地域連携
—全国を対象とした質問紙調査—

嶋田 珠々 （筑波大学大学院）
藤田 直子 （筑波大学大学院）

- 2 幼稚園における自然体験活動の実態と課題

山本 陽子 （小田原短期大学）
間野 百子 （小田原短期大学）
竹内あゆみ （小田原短期大学）

- 3 保育施設における活動切り替え場面の分析：環境と人の相互作用の観点からの検討

西尾 千尋 （甲南大学）

研究発表（口頭発表Ⅲ-5）

11月17日（日） 9:20～10:50

【会場】 研修室 815

座 長 野澤 祥子 （東京大学）
副島 里美 （長野短期大学）

1 園長のリーダーシップと諸要因との関連の探索的検討

野澤 祥子 （東京大学）
松井 剛太 （香川大学）
淀川 裕美 （千葉大学）
香曾我部琢 （宮城教育大学）

2 保育業務改善とマネジメントのあり方の検討

副島 里美 （長野短期大学）

3 主任保育者による「主任」としての自己認識変容のプロセス ークラス担任を兼任する主任保育者の語りからー

棚橋 裕子 （名寄市立大学）

研究発表（口頭発表Ⅲ-6）

11月17日（日） 9:20～10:50

【会場】 研修室 816

座 長 前田 和代 （東京家政大学）
松田 聖子 （帝京平成大学）

- 1 保育内容「園行事」の捉え方に関する一考察
—学生アンケート分析を通して—
前田 和代 （東京家政大学）
- 2 指導計画案の『環境構成』、『予想されるこどもの姿』、『実習生の援助・配慮』をどのように表現するのか①
—学生にわかりやすい授業を展開するために—
三島 秀晃 （帝京平成大学）
- 3 指導計画案の『環境構成』、『予想されるこどもの姿』、『実習生の援助・配慮』をどのように表現するのか②
—学生にわかりやすい授業を展開するために—
松田 聖子 （帝京平成大学）
- 4 「遊び／ドラマ／演劇連続体」から「遊び／ドラマ／演劇醸造型集合体」に基づく保育者養成への移行
小林由利子 （明治学院大学）

研究発表（口頭発表Ⅳ-1）

11月17日（日） 15:10～16:40

【会場】 研修室 815

座 長 小田 良枝（浜松学院大学）

河合 光利（帝京短期大学／玉幼稚園）

1 愛知県立保育大学校「研究課程」の実践

—「主題研究」を中心に—

小田 良枝（浜松学院大学）

2 幼児教育におけるSDG s の「全人教育」的解釈(4)

—3歳児の保育実践から—

河合 光利（帝京短期大学／玉幼稚園）

永井理恵子（帝京短期大学）

3 昭和・平成期の保育実践における保育の豊かさ

—保育者の語りの分析より—

佐藤 智恵（神戸親和大学）

研究発表（口頭発表Ⅳ-2）

11月17日（日） 15:10～16:40

【会場】 研修室 816

座 長 市野 繁子 （駒沢女子短期大学）

1 保育現場等において絵本の読みあいを次世代につなぐための一考察

市野 繁子 （駒沢女子短期大学）

相沢 和恵 （元浦和大学）

丸山ちはや （盛岡大学短期大学部）

木本 有香 （東海学園大学）

野見山直子 （彰英保育福祉専門学校）

田中 卓也 （育英大学）

2 「戦いごっこ」と女子

—保育園幼児クラスのビジュアル・エスノグラフィー調査を通して—

天野 諭 （日本学術振興会特別研究員／立命館大学大学院人間科学研究科博士課程後期課程）

研究発表（ポスター発表Ⅰ）

11月16日（土） 9:20～10:50

【会場】 会議室 807、808

- 1 フィードバック型保育ドキュメンテーション教材の開発
—海賊ごっこ場面で抱いた疑問に着目して—
戸田 大樹 （創価大学）
舘 秀典 （駿河台大学）
- 2 市街地にある保育所等における子どもの散歩の環境(2)
—保育者に対するヒアリング調査の結果から—
西舘 有沙 （富山大学）
- 3 文化的言語的に多様な幼児が生活する園の言語環境に関する研究 2
：保育者の意識に関するヒアリング調査から
西村 実穂 （東京未来大学）
篠沢 薫 （洗足こども短期大学）
- 4 文化的言語的に多様な幼児が生活する園の言語環境に関する研究 1
：保育者の意識に関するアンケート調査から
篠沢 薫 （洗足こども短期大学）
西村 実穂 （東京未来大学）
- 5 保育者養成校における教材の研究の意義
鈴木えり子 （華頂短期大学）
- 6 認定こども園の長時間にわたる教育及び保育で求められる保育者の専門性に関する研究
小木曾友則 （千葉明德短期大学）
- 7 熟達者は未満児クラスを担当する保育者にどのような資質を求めているのか(1)
石田 淳也 （常葉大学）
松延 毅 （小池保育園）
中田 範子 （東京家政学院大学）
保木井啓史 （福島大学）

8 熟達者は未満児クラスを担当する保育者にどのような資質を求めているのか(2)

郷家 史芸 (千葉明德短期大学)

佐藤 孟 (六郷保育園・星槎大学大学院)

藤田 清澄 (盛岡大学)

平山 淑希 (仙台青葉学院短期大学・玉川大学大学院)

9 熟達者は未満児クラスを担当する保育者にどのような資質を求めているのか(3)

—H保育者の事例をもとにしたPAC分析から—

小森谷一朗 (聖和学園短期大学)

田宮 希砂 (仙台青葉学院短期大学)

津田 綾子 (仙台白百合女子大学)

駒 久美子 (千葉大学)

10 校長が語る幼保小連携・接続の困難と変化の方向性

一前 春子 (共立女子短期大学)

秋田喜代美 (学習院大学)

天野美和子 (東海大学)

11 「食育」に関する研究の動向と課題

—論文タイトルの計量テキスト分析から—

田崎 慎治 (比治山大学)

本岡美保子 (比治山大学)

研究発表（ポスター発表Ⅱ）

11月17日（日） 9:20～10:50

【会場】 会議室 807、808

- 1 3歳未満児対象の実習における保育実践の効果
—緩やかな担当制を見据えて行う模擬保育を通して—
上原 由美 （新潟青陵大学短期大学部）
小柳 桃子 （新潟青陵大学短期大学部）
- 2 コロナ禍後における保育士の精神的健康度とその要因
中原 雄一 （福岡県立大学 人間社会学部）
伊勢 慎 （福岡県立大学 人間社会学部）
小山憲一郎 （福岡県立大学 人間社会学部）
- 3 公立図書館における子育て支援の実態
八幡眞由美 （国立音楽大学）
- 4 子ども中心主義の保育へ転じる園ではどんなマネジメントが行われたか？
平山 淑希 （仙台青葉学院短期大学・玉川大学大学院）
- 5 資格を有していない園長の職務に関する研究
—着任の経緯とさまざまな困難について—
田坂 嘉章 （竹原市立たけのここども園 広島大学大学院博士課程前期）
- 6 幼小接続の具体的な支援を探る
—幼小連携及び交流・参加活動の実践における保護者アンケートを手がかりとして—
中川 順子 （広島大学附属幼稚園）
- 7 保育者の子どもとの関わりについての悩み3
—3歳未満児保育と3歳以上児保育の違いをアンケート調査より探る2—
小山 朝子 （和洋女子大学）
- 8 アフターコロナにおける幼稚園4歳児が地域を活性化する町探検実践の試行
伊勢 慎 （福岡県立大学人間社会学部）
小山憲一郎 （福岡県立大学人間社会学部）
中原 雄一 （福岡県立大学人間社会学部）

- 9 保育士養成・栄養士養成課程の教育プログラム開発
—PBL型教育「保育・食育実践プログラム」への取り組み—
高橋 恵美 (東北生活文化大学短期大学部)
- 10 協働を生み出す園組織の形成プロセスに関する検討
～X 保育所における開園3年間の事例をもとに～
遠藤 純子 (昭和女子大学)
小野 友紀 (大妻女子大学短期大学部)
- 11 保育園2歳児クラスでの泣きに対する保育者の関わり
—身体の使い方に着目して—
何 星雨 (東京学芸大学)
倉持 清美 (東京学芸大学教職大学院)
- 12 アタッチメント理論に基づいた乳児保育実践の考察
小西 淳子 (就実大学)
三好 年江 (就実短期大学)
- 13 異年齢保育後の振り返り活動で語られる子どもの体験の変化と思いやりの発達
樟本 千里 (岡山県立大学)
- 14 絵本をめぐる保育の環境構成と再構成
野口 隆子 (東京家政大学)
- 15 子どもとの関わりにおける保育者の情動性
—情動性に対する意識と情動性の獲得プロセスの検討—
松浦 美奈 (こども教育宝仙大学)
- 16 父親の協同育児が養育態度に与える影響
密城 吉夫 (羽陽学園短期大学)

日本乳幼児教育学会 第34回大会 実行委員会

大会実行委員長	香曾我部琢	宮城教育大学
大会副実行委員長	田中 卓也	育英大学
大会事務局長	藤田 清澄	盛岡大学
実行委員	保木井啓史	福島大学
	津田 綾子	仙台白百合女子大学
	松延 毅	社会福祉法人浄勝会小池保育園
	石田 淳也	常葉大学
	郷家 史芸	千葉明德短期大学
	駒 久美子	千葉大学
	中田 範子	東京家政学院大学
	平山 淑希	仙台青葉学院短期大学・玉川大学大学院
	高橋 恵美	東北生活文化大学短期大学部
	田宮 希砂	仙台青葉学院短期大学
	小森谷一朗	聖和学園短期大学

日本乳幼児教育学会 第34回プログラム

発行日	2024年11月
発行者	日本乳幼児教育学会第34回大会実行委員会
実行委員長	香曾我部琢
作成	名鉄観光サービス(株) 仙台支店

日本乳幼児教育学会 第34回大会 協賛団体ご芳名

(五十音順・敬称略)

株式会社 北大路書房

教育情報出版

株式会社 新宿スタジオ

中央法規出版 株式会社

株式会社 萌文書林

大会を開催するにあたり、上記機関・企業・団体等より多大な賛助や広告掲載をいただきました。

ここにそのご芳名を記して、心より感謝の意を表します。

2024年11月吉日

大会実行委員長 香曾我部 琢

北大路書房

〒603-8303 京都市北区紫野十二坊町12-8

☎ 075-431-0361 FAX 075-431-9393

<https://www.kitaohji.com> (価格税込)

生命と学びの哲学

—育児と保育・教育をつなぐ— 久保健太著 四六・328頁・定価2200円 人が育つ・学ぶ・生きるということをこれほど直接的に扱う実践的学問は保育・幼児教育をおいて他になく、必ず「哲学」がある。本書では育児、保育・教育について熟考してきた著者の多彩な論考から、保育の実践知を言語化するために必要な〈実践に埋め込まれた哲学〉を掘り起こす。

大豆生田啓友対談集 保育から世界が変わる【仮題】

大豆生田啓友ほか著 保育・幼児教育の変革期にあるいまだからこそ、議論すべきことがある。保育とは、教育とは、子どもにとって、親にとって…。そもそも子どもとは、生きるとは、……。保育から世界を変えるため、未来の社会・文化を創造するために、多領域の研究者や実践者、作家などと「子どもを真ん中に置いて」語り合う。

ニューロマイノリティ

—発達障害の子どもたちを内側から理解する— 横道誠、青山 誠編著 四六・312頁・定価2420円 当事者・支援者・研究者が一体となって「発達障害理解」に革命を起こす！ ニューロマイノリティとして生きている子どもたち、「発達障害児」の体験世界を「内側から理解する」という視点から多様な著者が多角的に描き出す。

人はいかに学ぶのか

—授業を変える学習科学の新たな挑戦— 全米科学・工学・医学アカデミー編 秋田喜代美、一柳智紀、坂本篤史監訳 A5・396頁・定価4620円 『How People Learn（邦題：授業を変える）』から20年の間で明らかになった知見に基づき再構成された最新版。脳科学・神経科学、動機づけ研究や文化等多様な切り口から人の「学び」に迫る。

子どもの遊びを考える

—「いいこと思いついた！」から見えてくること— 佐伯 胖編著 四六・248頁・定価2640円 「遊び＝自発的な活動」というのは本当か？！ 「いいこと思いついた！」という現象を切り口に、「中動態」や「天然知能」などの概念を参照しながら、子どもの「遊び」の本質に迫る。

子どもをあらわすということ【仮題】

青山 誠、三谷大紀、川田 学、汐見稔幸編著 保育研究の方法として、また日々の記録としての記述や写真。子どもの世界を知るために「あらわす」のか、「あらわす」ことで子どもの世界が見えてきたり、子どもの声が聞こえてきたりするのか。子どもを「あらわすこと」の意味を探ることを通して、保育という営みの本質にせまる。

絵本で実践！ アニマシオン

—子どもの力を引き出す26のプログラム— 木村美幸著 A5・176頁・定価2420円 読書を通して、対話する力、自ら考える力、自分を表現する力など、子どもの様々な力を引き出す「アニマシオン」という読書指導法。本書では乳幼児期を対象に著者が数多くの現場で実践を積み重ねてきた「絵本」を用いたアニマシオンについて、わかりやすく具体的に解説する。

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目指して

奈須正裕、伏木久始編著 A5・352頁・定価2640円 全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実とは。この問いに迫るため、当代きっての著者たちが現状想定される多様な回答を理論と実践の両側面から検討する。「一人一人の子供を主語にする学校教育」の実現に向けていま何ができるのか。その手がかりがここにある。

持続可能な社会をめざす0歳からの保育

井上美智子、登美丘西こども園著 定価2420円

デジタル社会の子どもを育つ 保育内容 健康

田口喜久恵編著 定価2640円

発達心理学15講

高橋一公、中川佳子編著 定価2420円

北欧スウェーデン発 科学する心を育てるアウトドア活動事例集

C. ブレイジ著／西浦和樹編訳 定価2420円

社会情動的スキルを育む「保育内容 人間関係」

無藤 隆、古賀松香編著 定価2530円

「気になる」子どもの社会性発達の理解と支援

本郷一夫編著 定価1980円

子どもの育ちをとりえるラーニング・ストーリー

穴戸良子、三好伸子著 定価2420円

はじめて学ぶ保育原理【新版】

吉見昌弘、斎藤 裕編著 定価2420円

行列のできる児童相談所

井上 景著 定価2530円

まだまだあるぞ！ 保育現場の「なぞルール」

根拠のない習慣やルールを見直せば、保育はもっとよくなる



- 石井章仁＝著
- 定価 1,760円（税込） A5判・144頁
- 2024年9月発行 ISBN978-4-8243-0119-2

根拠や理由が明確でないにもかかわらず伝統的にくり返し行われる行為やルールを「なぞルール」として取り上げ、自園の保育を見直す園内研修等の仕方も紹介。楽しみながら保育の課題を改善できるお得な一冊。

遊び・学びを深める 日本のプロジェクト保育 協働探究への誘い



- 秋田喜代美、松本理寿輝＝監修／
東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター、
まちの保育園・こども園＝編著
- 定価 2,640円（税込） B5判・184頁
- 2024年9月発行 ISBN978-4-8243-0007-2

子どもと保育者がともに主体となり、対話しながらプロジェクトを進めていく「協働探究」の面白さを、事例を通して伝える。保育者の観察の仕方や働きかけなどを丁寧に解説。

10のスキルで防ぐ！ 「不適切保育」脱却ハンドブック 園で役立つ知識とあの手・この手



- 菊地奈津美、河合清美＝著
- 定価 2,200円（税込） B5変形判・142頁
- 2024年9月発行 ISBN978-4-8243-0116-1

子どもの食事がなかなか進まない、〇〇しないなどつい言うってしまう…。日常の「不適切保育」につながりかねない場面から、具体的な解決方法を提案する。適切と不適切の境界線を考えるミニワークや、最新ガイドラインの解説も収載。

学び合い、深め合う 園内研修

特別な配慮が必要な子どもとの関わりを考える44のワーク



- 一般社団法人保育教諭養成課程研究会＝編集／
無藤 隆＝編集代表
- 定価 2,860円（税込） B5判・186頁
- 2024年8月発行 ISBN978-4-8243-0097-3

特別な配慮を要する幼児への対応や取り組みをワークシート形式で学べる園内研修テキスト。発達障害の基礎知識、支援に必要な組織体制や計画作成、家族支援の方法について、44の書き込み式ワークと解説がセットで展開。

外国につながる子どもの 保育とクラスづくり 心と言葉を育む多文化保育



- 内田千春＝著
- 定価 2,420円（税込） B5判・144頁
- 2024年8月発行 ISBN978-4-8243-0000-3

外国につながる子どもの増加に伴い対応を迫られている保育園・幼稚園等に向け、具体的な保育の実践方法を解説。保護者対応・支援に加え、子どもの育ちの支援、周りの子どもたちへの支援やクラス運営の工夫などをわかりやすく示す。

少しの工夫で変わる！ 気になる子が過ごしやすくなる 保育の環境構成



- 守 巧＝編著
- 定価 2,420円（税込） B5変形判・152頁
- 2024年6月発行 ISBN978-4-8243-0061-4

気になる子が過ごしやすくなる環境構成のビフォー&アフターを写真で解説。少しの工夫で気になる子が落ち着いたり、いきいきと活動できるようにする事例を「お支度」「集まり」「食事」「午睡」「トイレ」「遊び」など場面別に解説する。

「オープントイレ」で保育が変わる トイレ環境から子どもの発達と主体性を支える

- 村上八千世＝著／馬場耕一郎＝監修
- 定価 2,640円（税込） AB判・142頁
- 2024年3月発行 ISBN978-4-8058-8978-7

動画で学ぶ 保育における子どもの遊び 「遊び込む」ための保育者の援助のポイント

- 高橋健介＝著
- 定価 2,750円（税込） B5判・216頁
- 2024年1月発行 ISBN978-4-8058-8828-5

写真と動画でわかる！ 「主体性」から理解する子どもの発達

- 久保健太＝編著
- 定価 2,420円（税込） AB判・116頁
- 2024年3月発行 ISBN978-4-8243-0054-6

事例とワークで考える こどもの権利を大切にする保育 不適切な保育等を予防・解決する園づくり

- 関山浩司＝著
- 定価 2,420円（税込） B5判・202頁
- 2024年5月発行 ISBN978-4-8058-8983-1

こども基本法の制定・施行、こども家庭庁の発足を受けて改訂版を刊行



幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の成立と変遷

—こどもまんなか社会の実現に向けて—

民秋 言 編者代表

西村重稀・清水益治・千葉武夫・馬場耕一郎・川喜田昌代 編

A5判 326頁 1540円 978-4-89347-431-5

第1部「教育要領」「保育指針」「教育・保育要領」の成立と変遷、展開 第2部「保育の内容」の原点を求めて—「保育要領」から学ぶ— 第3部 保育における子どもの育ち（発達）と「保育の内容」—平成11年「保育指針」が伝えるもの— 第4部 新旧対照表 第5部 教育・保育関係法令

多様な視点から子どもを論じる好評学術誌。第12号発刊！



子ども学 第12号 2024

編集：白梅学園大学・白梅学園短期大学子ども学研究所「子ども学」編集委員会 発売：萌文書林

B5判 228頁 1980円 978-4-89347-402-5

巻頭特集 子ども・子ども学トピックス 2024.....汐見稔幸
特集1 子どもと教育格差.....ト田真一郎／寺町晋哉／前馬優策
特集2 子どもの権利.....浜谷直人／岩崎美智子
特集3 医療的ケア児.....網塚貴介・大瀧 潮・奥寺さおり／二宮祐子／田中真衣

◆◆ 近刊予定・好評既刊 ◆◆

幼児教育の質の向上に向けて思想や制度、実践を学ぼう
幼児の教育原理

請川滋大 編著 加藤直子・徳田多佳子・松原乃理子 著
B5判 208頁 予約2200円 978-4-89347-378-3

保育者のあるべき姿や専門性について理解を深める一冊
書いて学べる保育者論

岩崎淳子・及川留美・粕谷亘正 著
B5判2色刷 208頁 予約2200円 978-4-89347-389-9

障がいの当事者や保護者のさまざまな声から学びを深める
**保育者・教育者になる人のための
特別支援教育**

当事者の声を聴く—
小林芳文 監修・著 武藤篤訓 著者代表
B5判 208頁 予約2090円 978-4-89347-435-3

現代社会の諸問題に対して考え続ける力を身につけよう
社会福祉とわたしたち〈第2版〉

一瀬早百合 著
A5版 304頁 2090円 978-4-89347-433-9

登場人物の物語とともに用語や制度、支援を学ぶ！
図解で学ぶ保育 子ども家庭

福祉〈第2版〉

直島正樹・河野清志 編著
A5判2色刷 218頁 2310円 978-4-89347-396-7

改正児童福祉法に対応し、入所・通所施設の記述を改版
子育て支援〈第2版〉

15のストーリーで学ぶワークブック—
二宮祐子 著

A4判クォーター付 172頁 1680円 978-4-89347-434-6



株式会社

HOUBUNSHORIN

萌文書林

2024年秋 出版案内

※表示価格は
税込定価

〒113-0021 東京都文京区本駒込6-15-11 TEL 03-3943-0576 FAX 03-3943-0567

新刊 新しい時代の
保育者論

編著 須藤麻紀

ISBN 978-4-909378-61-3
A 5判・176頁 定価 2,200円（本体 2,000円＋税）

カラー口絵付



好評販売中

新・保育の計画と評価

ー理論と実践をつなぐ保育カリキュラム論ー

編著 前田和代

ISBN 978-4-909378-59-0
B 5判・168頁 定価 2,200円（本体 2,000円＋税）

カラー口絵付
本文2色刷

新刊 〈子どもの遊びと児童文化をつなぐ〉
子どもの文化

理論と実践から学び、考えよう

編著 宮野 周

ISBN 978-4-909378-63-7
B 5判・160頁 定価 2,200円（本体 2,000円＋税）

カラー口絵付



改訂新版

**マンガとアクティブ・ラーニングで学ぶ
保育内容総論**

編著 開 仁志

ISBN 978-4-909378-60-6
B 5判・208頁 定価 2,497円（本体 2,270円＋税）



全50頁
マンガ掲載

新刊 哲学的な考えをいかす
新・保育原理

ー保育の未来を考えるー

編著 伊藤潔志

ISBN 978-4-909378-62-0
B 5判・176頁 定価 2,300円（本体 2,090円＋税）

カラー口絵付
本文2色刷



新・保育内容「環境」

ラーニング・ストーリーで綴る学びの記録

編著 永渕泰一郎

ISBN 978-4-909378-53-8
A 5判・192頁 定価 2,200円（本体 2,000円＋税）

第1・3部2色刷
第2部カラー

子ども家庭支援論

ー子どもを中心とした家庭支援ー

編著 七木田 敦・上村眞生・岡花祈一郎

ISBN 978-4-909378-36-1
A 5判・192頁 定価 2,000円（本体 1,818円＋税）

カラー口絵付
本文2色刷

図書出版・販売
教育情報出版
<http://www.kyoiku-joho.jp>

〒557-0055 大阪市西成区千本南1-18-24
TEL 06-6658-8741（代） FAX 06-6652-2928 MAIL info@kyoiku-joho.jp

映像教材を月額制で手軽に使える便利な配信サービスのご案内

キャリアアップ研修や
保育・教育実習等での悩みを
サブスクで解決！

300タイトルを超すすべての作品が

- 👉 月々定額制で見放題！
- 👉 保育の専門家が監修！
- 👉 オンライン授業・研修で利用可能！
- 👉 スマホやパソコンから手軽に視聴可能！

作品によっては園の先生が撮影した貴重な場面もあったり、
他の園のリアルな様子や取り組みが知れるものもあります。

まずは5日間の
無料トライアルから
お試しください！



https://x.gd/Shinjuku_movie

株式会社 **新宿スタジオ**

〒151-0053 東京都渋谷区代々木 2-18-5
TEL 03-3379-1415 FAX 03-3379-1480 URL <http://www.shinjuku-studio.com>

E-mail: sub@shinjuku-studio.com

